



○猛威をふるった台風○

各小中学校で二学期が始まって早くも約二週間。例年なら最も過ごしやすい季節であるこの時期に、立て続けに台風が到来しました。

8月30日午後4時、札内川はゴォーと音を立ててうねり、大きな木の枝がいたるところで濁流におし流されていました。清柳大橋から状況を確認すると、いつも遊んでいる河川敷の公園は、すべり台の先が見えるだけで、あとはすべて水没…。

こんな光景は見たことがない！ただちに危険と判断し、安全確保のため、その日は全員16時半に帰宅体制に入りました。夜までには、帯広・幕別他、あちこちの地域で各避難情報が発令され、過去に例を見ないほどの非常事態となり、いっぽのお友だちの中にも、避難所で不安な一夜を過ごした子や、あと1、2cmで床上浸水だったという切羽詰まった状況の子もいたのです。

幸い、重大な被害にあったご家庭はなく、ほっと胸をなでおろしているところですが、今回の一連の災害を通じ、改めて自然の恐ろしい一面を実感したとともに、この経験を今後の防災対策に生かしていかなければならないと強く感じました。



初夏、穏やかな河川敷公園で遊ぶ子どもたちの様子



岩内の畑にて、とうもろこしの脇芽や雑草を取る作業




8月下旬、岩内の畑にてとうもろこしの収穫を予定しておりましたが、長期の日照不足と今回の台風の影響で、まだまだ食べごろは先になるとのことでした。いっぽの畑で育てている枝豆も、例年ならはちきれほどの房がいくつも実っているはずなのに、今年はようやく花が咲き始めたばかり…。それでも懸命に育てている野菜たちを見て、自然の持つ厳しさとたくましさ、そして優しさも感じております。

○9月の予定○

9月13日(火)	リトミック教室 幼児 (10:30~11:30 斎藤亭にて)
9月21日(水)	親子でいっぽ 幼児 (10:00~12:30 いっぽにて)
9月24日(土)	茶話会 各家庭 (15:00~16:30 いっぽにて)
9月30日(金)	幕別町発達支援センター職員8名による視察 (16:15~17:00 いっぽにて)

○夏休みの生活をふりかえって○

(7/25-8/18)

<p>7月27日(水) 防災の日</p>	<p>消防士さんのお話を聞いた後、防火服を着て、消防車のホースを使った消火訓練もできたよ!「来年も来てね～」と、大満足の子どもたちでした。</p>	
<p>7月28日(木) 音楽コンサート</p>	<p>サラダ館にて、オマチマンによる音楽コンサートを開催しました。幼児・小中学生から大人まで、みんな全身で歌って踊って楽しみました。</p>	
<p>8月4日(木) 音楽療法</p>	<p>東京の淑徳大学教授と竹内ゆか先生のご指導のもと、ピアノの音に合わせて体を動かしたり、楽器を演奏したりして、心も体も解放されました。ありがとう!</p>	
<p>8月5日(金) ゴミ分別の勉強会</p>	<p>市役所の「わけすけ君」と一緒にお勉強やゲームを楽しみました。いろいろ教えてくれたお礼に、みんな「にじ」を歌ったら、感動の涙を流してくれました。</p>	
<p>8月10日(水) いっば祭り</p>	<p>(詳細は次ページ)</p>	
<p>8月11日(木) ～15日(月)</p>	<p>お盆休みのご協力、ありがとうございました。</p>	
<p>8月18日(木) 救急法講習会</p>	<p>帯広市救急隊の佐藤氏によるお話は、絶妙な掛け合いで笑いを取り入れつつ、とても分かりやすい説明をしてくださいました。「人の命を守る」体験に、子どもたちも真剣でした。</p>	

悪天候に悩まされつつも、異年齢交流を楽しみながら、盛りだくさんの社会勉強を体験できた夏休み期間でした。

◎いっぽまつり、大成功！◎

8月10日、無事にいっぽまつりを終えることができました。おまつりのテーマは「みんなで、たのしもう！」です。春から積み重ねてきた経験を生かし、子ども一人ひとりが出し合った約30個もの意見に大人がスパイスを加え、1か月以上前からコツコツと準備を進めてきました。



「いっぽまつり」という名前ですが、お祭りさわぎをしてはしゃぐことが目的ではありません。日々の療育で大切にしていることや、子どもたちの成長した姿を、家族や近隣の大人の方々に披露することで、子どもたちの達成感や充実感、そして自信へとつなげていくことが、本当の目的なのです。

<日々の療育で大切にしている主なこと>

- 人の話を聞くとときはしっかり聞くなど、静と動のメリハリをつける。
- 知恵・力を惜しみなく発揮し、仲間と協力して目標に向かって進んでいく。
- 遊びの中で、楽しく足腰を鍛える。
- あるがままの自分を、好きになる。

例えば竹登りは、一朝一夕で出来るようにはなりません。雑巾がけをしたり、鉄棒やかけっこなどの全身運動で基礎体力を身につけてから、何度も練習して竹の感触に慣れ、バランス感覚を研ぎ澄ませて、初めて上まで登っていくことができるのです。



出店の役割分担も、スタッフや子どもたちで去年の反省点を出し合い、それを生かしてスムーズに行うことができました。こうしたイベントの回を重ねるごとに、子どもたちの見通しを持つ力や、考え、実行する力が育まれている…と実感しています。

参加する大人たちも、そうした目的を踏まえたうえで、子どもたちを温かく見守りつつ、より一体感を持って今後のイベントをより一層盛り上げていきたいなあ…と、夢が大きく膨らんでおります。



◎仲間と、日々の生活をつみ重ねて◎

礼に始まり、礼に終わる…。

姿勢を正し、「よろしくお願いします」と「ありがとうございました」の挨拶が習慣化できれば上出来、と思っていた論語もすっかり定着。

今では、凜とした空気の中で「子曰く(し、いわく)…」と子どもたちが先生になることもあります。

歌の時には、子どもたちが自ら「伴奏をやりたい」「指揮者をやりたい」と立候補し、歌う人も隣同士で自然に肩を組みながら体を左右に揺らします。

「やらされている」のではなく、自ら進んでその場に参加し、「楽しもう！」という心が育っているからこそ、澄み切った歌声を響かせ、聞く人に感動を与えることができるのでしょう。

送迎時、車に乗るときには「お願いします」、降りるときには「ありがとうございました」と、子どもたち自ら言えるようになっていきます。始めは緊張して言えなかったけれど、お友だちに影響されて、素直に言えるようになった子どももいます。仲間との日々の積み重ねて、すごいですね！



◎感動を、言葉に◎

札幌南小学校に通う小学校三年生の、はる君。とっても恥ずかしがり屋で、人とコミュニケーションをとるのがちょっと苦手…。でも宇宙の話になると、驚くほどの知識と情熱で生き生きとお話してくれます。

緻密なロケットの絵には、ただただ感心するばかり。とても素直で、いいところを一杯持っているはる君ですが、少しでも注意されると「どうせボクはだめなんだ…」と、自分を否定し、落ち込んでしまいがち。

そんなはる君のお母さんが「はるの一年生のときの詩が、リッチランドに採用されたので…」と連絡をくれ、はる君の詩がプリントされたリッチランド（六花亭のクッキー）を、利用日のお友だちに下さいました。

夢のようなお話に、目が熱くなるほど感動！せっかくなら全員でこの喜びを分かち合いたいと思いましたので、後日、一人に一枚ずつプレゼントいたします。

『ロケット打ち上げ』

一年 田中 晴琉

ゴォーとすごい音だった
だんだん だんだん とんで
ブースターがはずれたよ
おみごと
ぶんれつがきれいだった
先がパカッとわけて
はやぶさ2がでてきた
カメラにうつっていた
びっくり！
すごく上がったよ
いってらっしゃい
きをつけてね
中学生になるまでまってるよ

